

# 第1回 江戸川・ふれあい松戸川の水辺空間活用におけるワークショップ

2025年11月3日（月）開催

江戸川・ふれあい松戸川の現状と魅力について  
参加者同士の意見交換ができました

江戸川・ふれあい松戸川の水辺空間活用検討の第1回目のワークショップが開催されました。ワークショップは全3回の予定です。初回となる今回は、現状の江戸川ふれあい松戸川の「魅力と改善したいところ」や「魅力を高める楽しいこと」、「魅力を高めるために必要なもの」について整理することを目的としました。

百原研究院長による江戸川・ふれあい松戸川の自然環境や生態系に関する現状説明の後、市民の皆様、千葉大学学生とともに、松戸市役所職員が活発な議論を行いました。

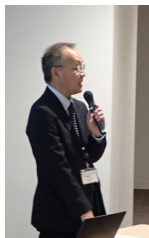
日時： 2025年11月3日（月）13:30～16:00

会場： アートスポットまつど

参加者： 43名

## 開催の挨拶

松戸市河川清流課 毛利課長

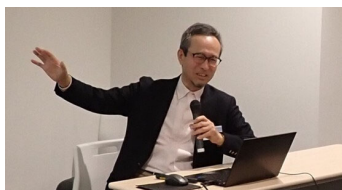


まず松戸市河川清流課課長 毛利より挨拶がありました。「ふれあい松戸川は建設から30年以上経過して、多くの野鳥などの豊かな生態系が形成されており、松戸市としてこの環境を守っていきたいと考えていますが、一方で松戸駅からのアクセスが良い地域であるが、多くの人が訪れる場所にはなっていない状況です。松戸市としては、自然環境の保全と共に、市民の皆様、民間の力をお借りしながら魅力ある活動ができればと考えています。そのため、千葉大学と江戸川河川事務所の協力をいただきながら江戸川ふれあい松戸川を魅力あふれる、より良い環境に残していけるような様々なアイデアをいただきたいと思いワークショップを企画いたしました。」と説明されました。

江戸川河川事務所の説明の後、市民の皆様、千葉大学学生とともに、松戸市役所職員が活発な議論を行いました。

## 江戸川及びふれあい松戸川における植生

千葉大学大学院 園芸学研究院 百原研究院長



江戸川河川敷の植生とその特徴について講演をいただきました。

「河川敷は山から海へ繋がっている緑地であり、動植物が行き来しやすい

場所です。植物は川が種子を運んでくれます。そして洪水等で削られた更地に上流から種子が流れてきて定着し、多様性が維持されている場所です。また、河川敷は堤防に比べて湿り気があり、



湿地や水辺に生えるヤナギやハンノキ、ヨシなどが生育しています。このような場所は水質の汚染に加え、上流域から流れてくる化学肥料を含む泥も堆積するため、富栄養となって、2m以上の高さのヨシが繁茂したり、勢力の強い外来植物が拡大する場所になっています。

河川敷では、洪水によるかく乱が頻繁に起こることにより更地が形成されます。かつては、河川は氾濫するのが当たり前で、もとあった植生が削られてできた更地が、様々な植物が新たに生育できる場所になってきました。しかし、現在は富栄養化が進むとともに、治水対策による洪水の発生頻度が低くなったことから、かく乱が起こらなくなってきました。そのため、本来の河川植生が変化してきています。

先月、現地の植生調査をしてみました。アレチウリやオオバタクサなどの勢力の強い外来種が繁茂する一方で、草刈りの管理が行われていた場所ではノコンギクやイヌタデ、オオバコ、ツユクサ、ツルマメなど外来植物が色々とみられました。

これらの在来植物は、かく乱がおこらない環境では、外来植物に覆われてなくなってしまうので、もっとみんなが河川敷の草むらの奥に入っていく、管理していくことも大事と考えられます。」と説明されました。

## 他市における川の利活用の事例紹介

### リバーフロント研究所

事務局を務めるリバーフロント研究所より、他市における川の利活用の事例紹介として、多摩川の聖蹟桜ヶ丘地区や二子玉川地区、乙川のリバーフロント地区、荒川の岩淵地区でのかわまちづくりや河川空間のオープン化を活用した水辺の賑わいづくりの事例や、宮川屋田地区や板櫃川での自然環境学習等を行っている水辺の楽校の事例の紹介を行いました。

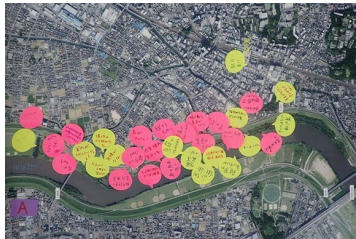


## グループワーク

今回のグループワークは4つの班に分かれて、航空写真や白地図を囲みながら、江戸川・ふれあい松戸川の魅力や楽しい事、魅力を高めるために必要なものについて意見交換を行いました。

### 「テーマ1」：「魅力と改善したいところ」

魅力としては、自然が豊かで鳥などがたくさんいる、土手から富士山や夕日などがきれいに見える、フラワーラインなどの花がきれい、などが出されました。



課題としては、草木が繁茂している、階段やスロープが少ない、自転車道が狭い、日陰が少ない、などの意見がありました。

### 「テーマ2、3」：「魅力を高める楽しいこと」と「魅力を高めるために必要なもの」

江戸川やふれあい松戸川で『どんなことができれば楽しいか』、『やってみたいこと』を幅広く抽出したうえで、その中の3つの“楽しいこと”を実現するために『必要なもの』、『あったら良いもの』などについて各班で話し合い、結果を全体に発表しました。

#### 「A班」

- ①安全・安心・便利・楽しい散歩道
- ②維持・管理がきちんとされたアクティビティ
- ③アート作品がある河川敷にする



安全で便利な散歩道として利用するために、例えばトイレ、街灯、休憩スペースなどの設置。高くなっている草丈については植生を考えた上での整備。また、堤防の上を広げて自

転車と歩行者がぶつからない散歩道に整備していく必要がある。

河川敷にアクティビティやアート作品の展示など、エリアや試験期間を設定して、検証してみることが大事。市内で行われているイベントや活動と連携することで活動のきっかけとなる。

#### 「B班」

- ①自然を活かす ②アクティビティ ③イベント



駅が近いのに多くの植物や動物などがいるのでこれを活かしていく。そのためには、人が入れる程度の整備や昔あった橋の設置。また、ホタルや水中昆虫が生息できるような川岸等の整備

や子供たちに向けた自然教室等が野鳥の会や漁協の連携のもとで開催できれば良い。

アクティビティとして BBQ や釣りが考えられ、BBQ は広場があれば人は集まるが、火や煙が野鳥等へ影響を与える恐れもありゾーニングや実施時期などの棲み分けが必要なため、有料化してご

み処理などしっかり管理していくのが良い。

イベントを行うためには、会場となる広場の整備を行うとともに、駅からのアクセスを改善するため、スロープや階段を広げる。

#### 「C班」

- ①自然体験会 ②イベント ③BBQ

自然を活かせる散策や星空観察、昆虫採集や野鳥観察、釣りができるスペースや自然観察用の看板設置が必要。子供たちに自然環境を理解してもらうため小学校の総合学習と連携してはどうか。



イベントとしては、オープンスペースを作る必要があり、子供を巻き込み触れ合える場にしていけることが大事。BBQ やイベントを行う前提として土手やふれあい松戸川沿いの草刈りがしっかりできることが大事。また、ごみや火災のリスクなどもあり、その管理方法を考える必要がある。

#### 「D班」

- ①自然学習 ②じゃぶじゃぶ池 ③菜園⇒販売⇒イベント (BBQ)



ふれあい松戸川の豊かな自然を大人から子供まで自然学習してもらえようにしたい。そのため、自然環境に関する知識を持っている人が必要であり、千葉大学の先生や野鳥

の会、河川事務所などに講師になってもらい自然学習を行う。また、ジョギングしている人の休憩場や BBQ の道具の貸し出しなど複合した目的の施設（拠点）がほしい。

じゃぶじゃぶ池は、親水広場のようなもので、ふれあい松戸川周辺に水遊びできる場所がほしい。

菜園とは、例えば、ツルマメのように食べられるものをここで採って BBQ など食べ、売る。食べれる植物を知ること自然学習にもつながると思う。

## 振り返り

### 百原研究院長コメント

「学生と皆さんと一緒に地についた議論により、様々なアイデアを得たり、そこへのプロセスもイメージすることができました。今後は、東京や世界からも松戸に来てもらう視点のアイデアも考えていってほしい。」と述べられました。

### 秋田教授コメント

「千葉大学園芸学研究所らしい専門知識に基づく自然再生を含めた新たなかわまちづくりが実現できれば、全国にもアピールできる。他地域にも広がっていけば素晴らしい。」と述べられました。

### 閉会の挨拶

#### 松戸市河川清流課 毛利課長

「今回、皆さんからいただいたアイディアをさらに魅力あるものに繋げていきたいと思います。」と述べられました。